

報 告

第8回医学図書館員基礎研修会参加記

田中 友恵

8月9日(水)~10日(木)の日程で京都府立医科大学にて行われた第8回医学図書館員基礎研修会に参加してきましたので、ご報告します。

神戸市立中央市民病院 図書室に勤務し、早いもので一年半を過ぎました。日々のちょっとした業務のなかで「???」という場面が恥ずかしなからあります。それで思い切って参加してみようと思いました。業務の基礎や今の作業方法が本当に適切かを知りたかったのです。

参加して非常に強く感じたのは、研修会が情報交換や人的交流の場になっていることです。新人の方に混じって、ベテランの方もいらしていました。北は青森県から南は鹿児島県まで大学図書館の皆様がほとんどでした。初日は、正直、一瞬場違いだったのではと感じました。が、昼食をいただくころには、とても和やかな雰囲気になり、気後れも消えてしまいました。ふだん話す機会のない大学図書館の方ともお話ができました。同じ近畿病院図書室協議会のメンバーの方や研究所の図書室の方とも出会え、仲良くしていただきホッと感じでした。いろいろな他館の実情を聞いて、大変参考になりました。

私は私用で失礼しましたが、第一日目には、懇親会もあり、皆様さらに親交を深められたことと思います。また、第二日目にはご好意でお昼休みを利用して御所につれて行っていただきました。突然のにわか雨や御所の案内係の方の「～おじゃります」という言葉に京都を感じま



した。

講義は「JMLA について」からはじまり、収書や相互貸借、情報検索まで、幅広く網羅されていました。(情報検索1では近畿病院図書室協議会事務局長 小田中徹也氏が講師をされていました)私は教科書的な講義を想像していましたが、実際はそれぞれの業務で成功している例と見受けられました。(講師の方の多くはJMLAの加盟館の方です)業務用のシステムはどのようなものを使用しているかという具体的な質問も相次いでいました。とても内容の濃いものでした。選書やPubMedの資料もいただきました。また、講義のほかにも、講演があり、古文書や古医書について、近未来の方向性についてなど、現実的な業務とは違った視点も盛り込まれていました。

宿題をたくさん持って帰ることになってしまった感じです。道ははるか遠く続いています。日々の業務に少しでも役立てたいと思っています。

京都府立医科大学附属図書館の皆様・実行委員の皆様、暖かいお心遣いありがとうございます。この場を借りて、お礼申し上げます。